

塩狩峠

三浦光世 筆

塩狩記念館
友の会会報第13号
平成18年3月発行

3大交流事が終わる

本年度の友の会が計画した3つの事業が終了し、多くの三浦ファンが塩狩峠記念館を訪れましたので報告いたします。

大人の紙芝居

七月十五日午後六時半より、塩狩峠記念館多目的ホールにおいて、三浦綾子さんの作品を紙芝居にした2作品（道ありき・まっかなまっかな木）を三浦綾子記念文学館ボランティアサークル「おだまき会」の藤木紀子さん村椿洋子さんのお二人に読み聞かせ方式で紹介いただきました。

紙芝居の後は、「おだまき会」の活動を紹介していただきました。

主な活動は文学館図書コーナーの整理とレファレンス、更に喫茶店と記念グッズの販売などを八十余名の会員が交代制で行っている様子でした。

また、友の会、図書館ボランティアとの活動の違いや心構え、成果について話し合わせ、参加した十七名は有意義な交流ができました。



演奏するモダンバロック

ミニコンサート

八月五日午後六時半より、塩狩峠記念館において「横田朱乎リコーダーリサイタル」を開催しました。

横田朱乎さんは、楽団モダンバロックをトリオで結成し、全国でコンサートを開催してリコーダーの魅力を広めています。

当日は、数種類のリコーダーと電子ピアノ、カジヨンと呼ばれる電子ドラムで、愛のうぐいす、アベマリアメドレーなど、十数曲演奏していただき、参加した六十五名は、普段聴くことのできないリコーダーの音色に聴き入っていました。

今回のコンサートは、コーラスに力による企画や準備などのご協力もあって、楽しい交流ができました。

中西清治講演会

九月九日午後六時半から「塩狩峠」を基督教団月刊誌に昭和四十一年より連載した折に、挿絵を担当した教員、中西清治氏を招き当時の思い出や綾子さんから学んだ事柄についてご講演いただきました。

綾子さんとの出会い、三浦文学では御主人と最初の口述筆記でできた作品であること。挿絵の依頼を受けて電話でのやり取りだけで挿絵を完成させたことなどのお話しを聴いたあと、当時の挿絵や三浦作品に装丁した表紙絵の原画などを展示解説していただきました。

参加者は、貴重な体験談と原画を観ながら質問をするなど、小説にはない挿絵秘話を心の中に刻んでおりました。



講演する中西清治氏

長野政雄さんを偲ぶ集い終了

2月28日午後7時から小説「塩狩峠」のモデルとなった故長野政雄さんを偲ぶ会が、塩狩温泉観光ホテルと旭川6条教会壮年部との共催で、友の会、文学館、読書会の協力を得て開催されました。

殉職顕彰碑の前には90名の参加者がつどい、400個のアイスキャンデルに包まれた中、礼拝を行い、賛美歌を皆で歌いました。

また、会場を移して塩狩峠記念館多目的ホールでは、交流会が行われ、中西清治さん、中島啓幸さん、三浦光世さんのお話を聞き、長野政雄さんの生様と三浦綾子さんへの思いなどを語り合いました。

塩狩温泉では「従業員の提案で始まったこの集いについては、温泉が実施するのは今年が最後になると思いますが、今後6条教会のお世話で継続してほしい」と、これまでの16年間を振り返り、参加者にお汁粉を振舞っていました。入江さんありがとうございました。そしてご苦労様でした。



殉職顕彰碑の前で

PRカレンダー作成

友の会会員で写真家の宮崎恒子さん（旭川市在住）が記念館の二〇〇六年版PRカレンダーを作成しました。A2サイズで4月から始まるカレンダーです。

宮崎さんのご好意で、先着250名に無料配布しますので、ご希望の方は産業振興課までお越しください。



来館者の声

記念館ノートから

塩狩峠記念館に設置している《来館者ノート》には多くの方から感想が寄せられています。今回はその中からほんの一部ですが、7月～11月に記載された分をご紹介します。

2005.7.10(日)

三浦先生の無心とか人間にもつ罪について、本を読む度に深い感動を覚えます。

今日、ここへ来て本当に良かったと思います。

私は今、ひとりの男性を心から愛しています。幾分かの恋愛をした中で、多分最後の恋愛でしょう。

京都から北海道まで、月に一度2泊3日にて、この愛を育てています。一時は破局になりかけた私たち、2週間ほど泣き続けたこともありました。

そんな中、彼は突然帰って来てくれました。そして4月から毎月こうして彼のもとへ来ています。

『無心』限りなく聡明な気持ちです。

(京都市 H)

2005.10.10(月)

「三浦綾子に会う旅」と勝手に称して汽車に乗り、稚内からやってきました。

昨日は、旭川の文学館を訪れ、展示物を見学し、書籍も数冊手にとって表紙をながめたり、初めの部分を読んだりしました。

今日は、この塩狩峠記念館に来ることをとても楽しみにしていました。三浦ご夫妻が当時暮らしていた様子を知ることができ、感激しております。

一階の部屋にあった、教科書に墨が塗られていたのが印象的でした。敗戦後、どんなつらい気持ちで黒く塗りつぶさなければならなかったと思うと、何だか悲しくなりました。しかし、このような辛い体験や闘病生活を送りながらも、人を信じること、愛することを大切に生きられた三浦綾子さんをとても尊敬します。

(稚内市 Y)

2005.7.16(土)

名寄で用事を済ませ帰途に寄りました。大学進学のために、本州にある故郷を離れて旭川で得た財産のひとつが三浦先生の本との出会いでした。

大学生活も今年で終わり、来年からは医師として北海道のどこかで働いていると思います。

「塩狩峠」の主人公のように使命を果たして全身全霊で患者を診る。そんな医者になりたい。

(旭川市 Y)

4月1日オープン

3月31日午後より友の会による冬囲い外しや委託業者による清掃が行われ、平成18年度は、4月1日(土)午前10時より開館となります。今年から有料化(大人200円小人100円)となりますので、入場者へのサービスや交流事業を充実させて、ひとりでも多くの方々にご来館いただける様に企画したいと思いますのでご理解ください。

2005.7.28(木)

随分昔になりますが、「塩狩峠」を読んで涙し、私の心に残る一冊となりました。数年後に再度読み返し再び感動の涙。

今日、偶然に記念館を発見し寄ってみました。私も三浦さん同様に長い間闘病苦に悩まされていまして、今元気で働けることに感謝です。感動で涙した塩狩峠の場所に来てまた感謝です。

(札幌市 S)

友の会リレートーク 峠の呟き

平成三年三月頃、初めて三浦綾子さんにお会いしました。秋の町民文化祭に向けた郷土資料館特別展の打合せでした。

本町に塩狩峠があり、ここを舞台にした小説がある。本町にも文学的な一面があることを再認識させられた時でありました。

秘書の八柳さんを通して、資料借用の件で三浦宅にお伺いし、当時の著書の全てを集めて、関連する資料も展示する目的でしたが、残りの数冊の著書がどうしても集まらず困っていると、八柳秘書が「私の私物でよければ」と貸していただき、展示に間にあったことが思い出されます。また、これがきっかけでJRがスポンサーであったラジオ番組に出演したり、いみじくも十月に総合体育館において、国道四十号塩狩峠の開通式典があり、ミニ展示を行うなど、よい思い出になりました。

縁があつて、昨年より記念館の担当をさせていただき、友の会の事務局として、草刈の実施や交流事業等の企画、実施などに関わっていますが、記念館には当時の資料も展示されており、なつかしさと共に親しみが湧いております。

記念館はJR塩狩駅と塩狩温泉観光ホテルに挟まれる旧国道傍の小高い丘の上にあつて、静寂で小さな林を抜けると、赤い文化屋根に白い壁、昭和三十年代の民家を思い出させる建物です。

年々、来館者が減っておりますが、和寒の塩狩にあるべき施設として、今後も三浦文学の聖地として、多くの人々に安らぎと夢を与える記念館の運営ができるよう努力したいと思います。